

Sentinel RMS License Manager セットアップ & クイックスタートガイド

株式会社エリジオン

最終更新日: 2017 年 4 月 5 日

0. はじめに

- ✓ エリジオン製品のライセンスは、SafeNet 社製の Sentinel RMS License Manager によりライセンス管理されます。
※ SafeNet および Sentinel は、SafeNet 社の登録商標です。
- ✓ Sentinel RMS License Manager については、9.1.0 以降のバージョンの使用を推奨いたします。
(Windows 10 でご使用の場合は、必ず 9.1.0 以降のバージョンをご使用ください)
※ Sentinel RMS License Manager は下位バージョンとの互換性が保証されております。よって、それより以前のものを既に導入している場合も、最新バージョンを導入することは特に問題ありません。
※ クライアントプログラム側のライブラリのバージョンが Sentinel RMS License Manager よりも上位のバージョンとなっている場合、動作は保証されません。ご注意ください。
- ✓ Sentinel RMS License Manager と WlmAdmin などのツールのバージョンは揃える必要があります。ツールのバージョンは、license_admin フォルダ内にある version.txt に記載されています。
- ✓ エリジオン製品をノードロックで使用する場合とフローティングで使用する場合のいずれの場合でも、Sentinel RMS License Manager の導入が必要となります。
- ✓ 本書では導入～設定/使用までに必要な最低限の手順を記述しております。より詳細な情報については下記のマニュアルを参照ください。
<インストールパッケージ>%license_server%document%manual%SysAdminHelp-JP%Default.htm

1 導入と設定

1.1 Sentinel RMS License Manager の動作環境

サポート OS	・Windows 7 (32bit/64bit) ・Windows 8.1 (32bit/64bit) ・Windows 10 (32bit/64bit)	・Windows Server 2008 (32bit/64bit) ・Windows Server 2008 R2 (64bit) ・Windows Server 2012 (64bit) ・Windows Server 2012 R2 (64bit)
最低動作環境	CPU : Pentium3 またはそれ以上の CPU で 550MHz 以上 RAM : 128M 以上	

1.2 Sentinel RMS License Manager のインストール

下記のインストーラ(setup.exe)を実行し、インストーラの指示に従ってインストールしてください。

＜インストールパッケージ＞¥license_server¥installer¥setup.exe

※ 既に Sentinel RMS License Manager を利用中の場合にも、上記のインストーラを実行してバージョンアップしてください。旧バージョンのアンインストールは実行しないで下さい。

※ 旧バージョンをバージョンアップする場合、万が一に備えて事前にライセンスファイル(lservrc)のバックアップをとることを推奨します。ライセンスファイル(lservrc)は下記のフォルダに保存されています。

＜インストールフォルダ＞¥Sentinel RMS License Manager¥WinNT

※ Sentinel RMS License Manager はデフォルトでは下記のフォルダにインストールされます。
(デフォルトでの導入を推奨)

(32bitPC の場合) C:¥Program Files¥Common Files¥SafeNet Sentinel

(64bitPC の場合) C:¥Program Files (x86)¥Common Files¥SafeNet Sentinel

Sentinel RMS License Manager の起動状況の確認方法

- ① Sentinel RMS License Manager をインストールした端末で、Windows の[コンピューター]を右クリックして、[管理]コマンドをクリックします。
- ② 「コンピューターの管理」ダイアログが起動したら、ダイアログ左側の[サービスとアプリケーション] > [サービス]ノードをクリックします。
- ③ 「Sentinel RMS License Manager」という名前のサービスがあり、その状態が「開始」になっていれば、ライセンスサーバは起動しています。

名前	説明	状態	スタートアップの種類	ログオン
Sentinel RMS License Manager	Sen...	開始	自動	Local System

※ 環境変数 LSERVOPTS が定義されている場合、値に設定されているパスが存在しない時にはサービスの起動が失敗します。その場合には当該環境変数を削除するか、設定されているパスに合わせてフォルダを作成してください。

1.3 WlmAdmin のインストール

ライセンス管理を行うための Windows GUI ベースのユーティリティツール (WlmAdmin) を導入します。任意のフォルダに、下記のフォルダをコピーしてください。

<インストールパッケージ>¥license_server¥license_admin¥

本ドキュメントでは、以下のフォルダにコピーしたものとします。

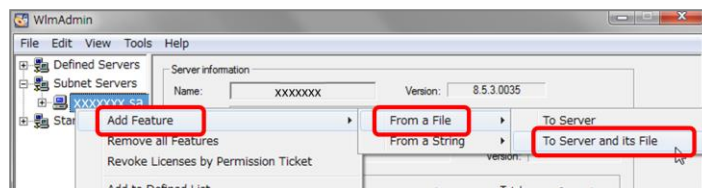
C:¥Elysium¥license_admin¥

※ 旧バージョンの license_admin フォルダが既にローカルに存在しており、バージョンアップを行う場合には、当該フォルダを削除した上で上記の手順に従って最新のものを再度コピーしてください。

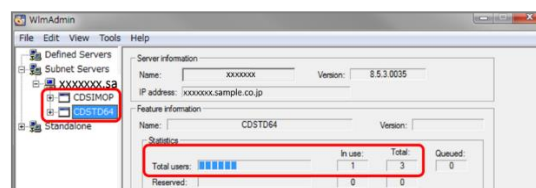
1.4 ライセンスの登録と使用状況の確認

※ 本手順は新規にインストールした場合、およびバージョンアップの際に旧バージョンと違うインストールパスを指定した場合に必要となります。同じパスに上書きしてバージョンアップした場合には不要です。

- ① 1.3 節でコピーした license_admin フォルダ内にある WlmAdmin.exe を実行します。**実行には管理者権限が必要です。**
- ② ダイアログの左側の「Subnet Servers」をクリックすると、Sentinel RMS License Manager を導入した端末が表示されます。
 ※ 「Subnet Servers」をクリックしても該当端末が表示されない、もしくは「Subnet Servers」クリック後に長時間経っても処理が終了しない場合には、[Q & A の 9 番](#)を参照してください。
- ③ 端末名を右クリックし、[Add Feature] > [From a File] > [To Server and its File]を選択します。([To Server]ではなく[To Server and its File]を選択してください)



- ④ ライセンスファイル (*.elylic) を選択して、[開く] ボタンをクリックすると、登録が完了します。
- ⑤ 登録したライセンスは、ダイアログ左側の端末名の下に示されます。ライセンス名をクリックすると、ライセンスの使用状況が表示されます。「Total」が合計ライセンス数で、「In use」が使用中のライセンス数です。



- ⑥ クライアントプログラムでライセンスを使用する時は、サーバ名とポート番号 5093 を指定してください。

2 Q&A

Q1: ライセンスサーバの挙動を時系列で確認するためのログを作成できますか？

A1: 可能です。SafeNet のマニュアルの「Usage ロギングの設定」をご参照ください。

Q2: ある時点でのライセンスの利用状況（利用者やライセンス数など）をテキストファイルに出力できますか？

A2: 可能です。lsmon.exe を用いてコマンドラインに出力したライセンスの利用状況を、テキストファイルにリダイレクトしてください。lsmon.exe のオプションや詳細な仕様については、SafeNet のマニュアルの「lsmon — ライセンスサーバのトランザクションの監視」をご参照ください。

Q3: 冗長化したライセンスサーバを構築するにはどうすればよいですか？

A3: 冗長化したライセンスサーバの構築は通常のライセンスでは行えません。冗長化構築のための専用ライセンスが必要です。冗長化したライセンスサーバの構築は有償機能とさせていただいておりますので、対应手順/価格などについては購入元の販売代理店様、もしくはエリジオンへお問い合わせください。

Q4: クライアントプログラムとライセンスサーバはどのような方法で通信を行っていますか？

A4: クライアントプログラムから UDP 5093 番ポートを使用してライセンスサーバと通信を行います。TCP ではなく UDP ですのでご注意ください。

Q5: 使用するポート番号 (UDP) を変更するにはどうすればよいですか？

A5: 使用するポート番号 (UDP) を変更する方法については、SafeNet のマニュアルの「ライセンスサーバ — 使用頻度の低い変数」(LSPORT) をご参照ください。なお、別途説明しているライセンス持ち出し機能を使用する場合は、UDP 5093 番ポートを使用する必要があります。

Q6: 部署ごと・ユーザーごとにライセンスを使用できる数を定義するにはどうすればよいですか？

A6: WlsGrmgr.exe を用いてグループリザベーションファイルを作成すれば、各部署がどのライセンスをいくつ使用できるかなどを、ホスト名やユーザー名単位で定義できます。詳しくは、SafeNet のマニュアルの「Windows でのグループリザベーションファイルの編集 (WlsGrMgr)」をご参照ください。

Q7: WlmAdmin から正しくライセンスサーバの情報を参照できません。

A7: WlmAdmin をはじめとした license_admin フォルダ内のツール (License Utility) は、ライセンスサーバ (License Manager) とバージョンがそろっていないと正しく動きません。license_admin¥elcomp.wsf に License Utility をドラッグアンドドロップすると、下図のようにバージョンが揃っているかどうかを確認できます。

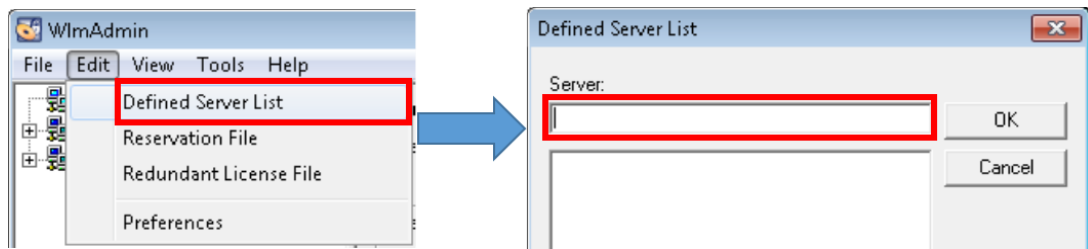
License Manager: v8.5.5.15 (lservnt) License Utility: v8.5.5.15 (WlmAdmin) Compatibility: COMPATIBLE	License Manager: v8.5.5.15 (lservnt) License Utility: v8.4.1.5 (WlmAdmin) Compatibility: NOT COMPATIBLE
--	---

Q8: マニュアル (Default.htm) を Internet Explorer 11 (IE11) で開いても何も表示されません。

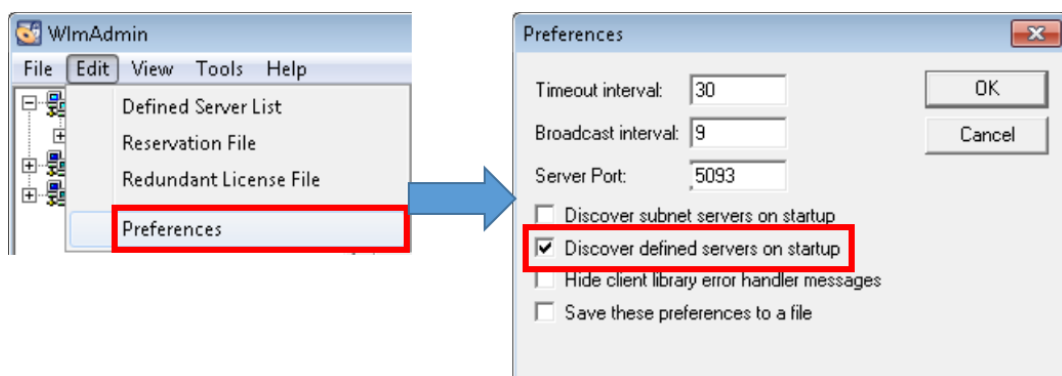
A8: IE11 のドキュメントモードを IE10 に変更する必要があります。[F12] キーを押すか [ツール] メニュー内のコマンドから「F12 開発者ツール」を起動してください。ツールが起動したら、画面左のタブからエミュレーションツールを選択して、ドキュメントモードの値を 10 に変更してください。

Q9: 「Subnet Servers」をクリックしても該当端末が表示されません。(もしくは、クリック後長時間経っても処理が終了しません)

A9: メニューから、[Edit] > [Defined Server List]を実行して、該当端末名を入力してください。



また、入力した端末名を保存するために、メニューから[Edit] > [Preferences]を実行して、“Discover defined servers on startup”にチェックを入れてください。



Q10: ライセンスに関連する問題でエリジオン製品が正しく動作しない場合はどうすればよいですか？

A10: 以下の 3 つの環境変数を設定し、それぞれのログファイルを取得してください。サポート窓口への問い合わせ時、現象報告とともに、取得したログファイルもサポート窓口までお送りください。

[サーバ側]

環境変数: LSERVOPTS

例: LSERVOPTS=-l C:\Elysium\license_admin\log\lserv.log

- ・値としては、-l の引数で保存するログファイル名を指定してください。
- ・システム環境変数に設定し、OS を再起動してください。

[クライアント側]

環境変数: ELY_RMS_DBG_FILE

例: ELY_RMS_DBG_FILE= C:\Temp\rmsdbg.txt

- ・値としては、保存するログファイル名を指定してください。
- ・環境変数に設定し、該当エリジオン製品を再度起動してください。

環境変数: ELSSENT_ERROR_FILE

例: ELSSENT_ERROR_FILE= C:\Temp\rmsdbg2.txt

- ・値としては、保存するログファイル名を指定してください。
- ・環境変数に設定し、該当エリジオン製品を再度起動してください。

Q11: ライセンスサーバを仮想環境で使用することはできますか？

A11: 可能です。ただし、ライセンスを有効に保つためには以下 3 点の情報が変更されないように運用していただく必要があります。

- MAC アドレス
- CPU 情報
- UUID

Q12: WlmAdmin を終了した際にアプリケーションの異常終了を示すエラーが発生します。どうすればよいですか？

A12: この現象は Sentinel RMS License Manager の既知の問題です。WlmAdmin を終了する前に [Help] - [WlmAdmin] を選択してバージョン情報を表示してから終了することで回避できる場合があります。なお、本現象は次期バージョン以降の Sentinel RMS License Manager で修正される予定です。